



統計スポット情報

No. 114

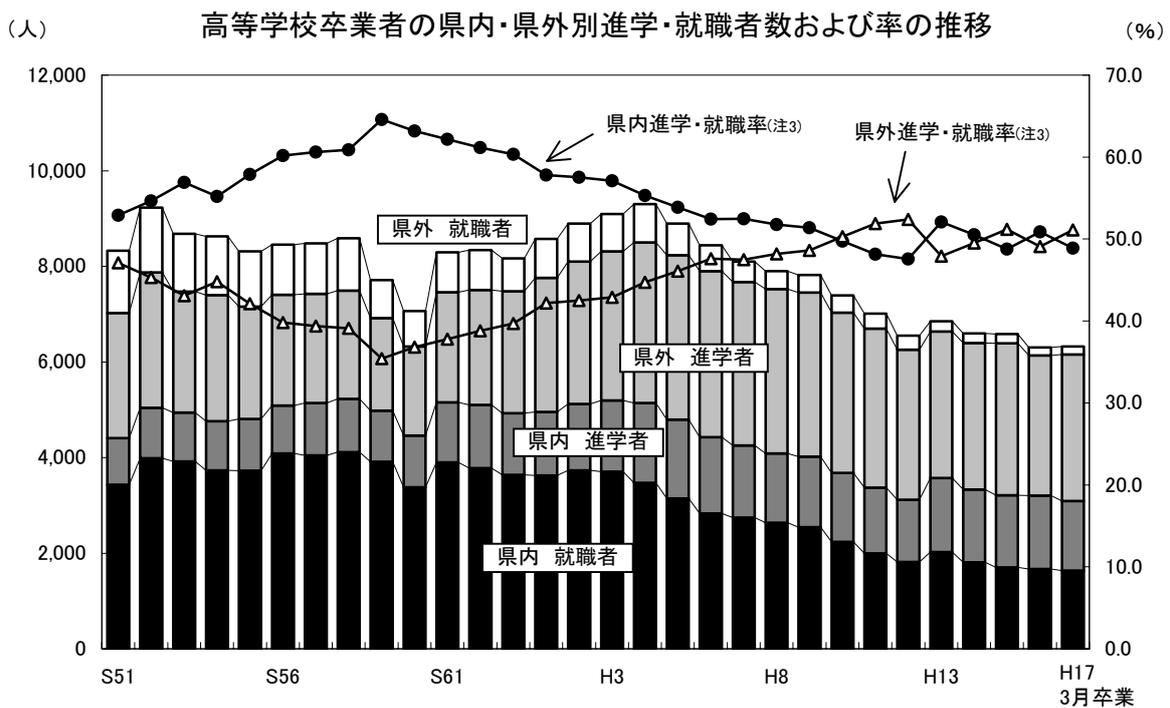
H18. 1. 31

福井県総務部政策統計室

高等学校卒業者の進学・就職先、半数は地元

平成 17 年度学校基本調査によると、平成 17 年 3 月の県内高等学校卒業者の大学等^(注1)への進学率は 52.3%で、過去最高を記録しました。これは、全都道府県の中でも 8 番目に高く、全国平均 47.3%を大きく上回っています。一方、就職率は 20.8%で、全国平均 17.4%を上回っていますが、その割合は年々減少しています。

今回は、学校基本調査および進路実態調査^(注2)の結果をもとに、高等学校卒業者が進学または就職をする際に、県内にとどまる者と県外へ転出する者の割合について調べてみました。県内・県外別の進学・就職者数と、その割合を示したものが以下のグラフです。



県内進学・就職率の動きを追ってみると、昭和 60 年から減少に転じており、平成 10 年に県外進学・就職率と割合が逆転して以降は、ほぼ半々の状況にあります。この県外へ転出する者の割合が増え始めた時期は、大学等への進学志向が高まり始めた時期と重なっており、進学先として県外を選ぶ高校生が増えたためと考えられます。

(注 1) 大学等とは、大学、短大および高等学校専攻科をいう。

(注 2) 進路実態調査は、県教育政策室が毎年行っている、中学校・高等学校卒業者の進路に関する調査である。

(注 3) 県内(県外)進学就職率 = 県内(県外)進学就職者数 / 全進学就職者数 × 100